

平成18年度「総合研究機構研究プロジェクト研究成果報告書」

安岡正篤と近代日本

Yasuoka Masahiro and Modern Japan

プロジェクト代表者：ロジャー・ブラウン

埼玉大学教養学部准教授

Roger Brown, Associate Professor

Faculty of Liberal Arts, Saitama University

本研究は今まであまり研究されていない国家主義者であった安岡正篤の近現代日本史における意味を明らかにすることを目標としている。安岡は、政財官界、軍人とも交流があり、さらに戦後公職追放より復活しており、歴代総理や大企業の指導者に弟子が少なくないの、安岡の思想的魅力を理解することには重要な歴史的価値がある。つまり、最終的には、戦前から戦後にかけての日本政治思想史を全体的にとらえた研究を行いたいと考える。昨年より現在まで以下のような研究成果をあげてきた。

- 1) 安岡の王道論に関する論文を出版した。英文題名：“Visions of a Virtuous Manifest Destiny: Yasuoka Masahiro and Japan’s Kingly Way.” In *Pan Asianism in Modern Japanese History*. Edited by Sven Saaler and J. Victor Koschmann. Routledge, 2007, pp. 133-150. 「徳ある神命のビジョン：安岡正篤の王道論」『近代日本におけるアジア主義』S. サーラー、J. ビクター・コシュマン編、ルートレッジ出版 2007 年（査読有り）。
- 2) 安岡の終戦詔書に入れた中国古典『近思録』の言葉とその思想に関する論文を完成した。これは2004年の秋に東京大学社会科学研究所の近代日本史研究会で発表した「「萬世ノ為ニ太平ヲ開カムト欲ス」—安岡正篤、国体護持、終戦の詔書」に基づくものである。その報告書を修正し、現在は他の専門家に読んでもらっており、その後 *Monumentica Nipponica* という専門誌に提出する予定である。英文題名：“‘Desiring to Inaugurate Great Peace’: Yasuoka Masahiro, *Kokutai* Preservation, and Japan’s Imperial Rescript of Surrender.”
- 3) 安岡と内務官僚との関係、特に「牧民官の理想」とその意味に関する論文の下書きを完成した。これは2004年の春に米国で行われたアジア研究協会で発表した「牧民官の維新—安岡正篤の昭和初期における革新論」に基づき、安岡といわゆる新官僚の

革新思想をテーマにする論文である。この論文を通して当時の内務官僚と既成政党との対決に関する理解が深められ、さらに昭和期、近代日本の官僚主義、政治思想を理解するためにも価値があると考えられる。これは修正後、*Journal of Japanese Studies* という専門誌に提出する予定である。英文題名：“‘Shepherds of the People’: Yasuoka Masahiro, the National Mainstay Society, and the Ideal of Bureaucratic Governance in Early Shōwa Japan.”

- 4) 2006年の米国で行われたアジア研究協会で発表した「安岡正篤と士道：海軍大学校講義を中心に」（“Shidō in the Service of the State: Yasuoka Masahiro and the Ideal of the Warrior as Moral Elite in Imperial Japan.”）がきっかけになり、来年一月にカリフォルニア大学サンタ・バーバーラ校で行う予定の「日本史における男らしさ」というワーク・ショップに招待されることになった。その結果をカリフォルニア大学出版会が刊行することになっている。

これから以上の成果に踏まえて安岡に関する著書執筆の完成を目指したい。

この研究プロジェクト経費に関しては 360,000 円を全て図書の購入に使用した。